

## 第1回南砺平高等学校全国生徒募集準備会 議事録

日時 令和5年11月6日(月) 18時30分～20時30分

場所 平若者センター 春光荘 201会議室

参加者 別紙の通り

### 【議事概要】

- 委嘱状交付・委員紹介
- 会長選任・副会長指名
- 会長挨拶
- 富山県立学校課 検討会議の内容を報告
- 協議事項1) 2) ⇒特に意見はなし
- 協議事項3)

#### (1) 身元引受人について

委員 A 身元引受人の設定はどこまで広げる可能性があるのか。平野で受け入れを行い、バスでの通学もあるのか。

事務局 生徒を現在の寮で受け入れることを想定しているため、緊急事態の時に対応する必要があると、平・上平地域での設定が望ましい。  
個人でそれぞれ設定するのか、地域の代表を身元引受人として設定して、コーディネーターや地域で実務を行う体制にするのか協議いただきたい。

委員 A 寄宿舍の受け入れ人数は52名だが、それ以上の生徒が集まった場合は想定されているか。

事務局 生徒が増えていった場合、民間の施設を考えることになると思う。当初から多くの生徒が集まることは難しいと考えている。

委員 B 学校教員の中では、県外生徒の生活面を誰が面倒を見るのかが心配されている。生活全般のサポートをする方を設定してほしい。  
現在の生徒は、病気などになった場合、保護者が迎えに来ていただいている。特にコロナなどの感染症になった場合、基本的には帰宅が原則である。

事務局 寮の空き室を利用して、体調の悪い生徒の療養を行うことはできないか。

委員 B その場合、運営自体を考えなければならない。

委員 C 利賀小学校の山村留学はどうなっているのか？

委員 A スターフォレストで受け入れ、食事は地域で交代して提供している。

事務局 委託業者は育てる会という全国の受け入れを行っている団体であり、対応している。今回のケースとは少し違う。

会長 地域みらい留学も、コーディネーターとして地域外から対応していただく人材を確保し、さらに平地域の地域おこし協力隊にも協力を仰ぐ予定ではあるため、その点も考慮していければ。

委員 D 一括で対応ということは、市長や教育長が身元引受人になるということも市は考えているということではないのか。

事務局 よい。実務はコーディネーターや地域と協力しながら行うという形で。

会長 身元引受人の件については、それぞれの生徒に対して地域の人をそれぞれ探すというのは現実的ではないので、代表者が引き受け、実際にはコーディネーターや地域で実際にサポートしていくことが現実的であるので、その方向で進めたい。  
⇒全会同意

## (2) 休寮日の生徒の生活について

委員 E 白馬高校の寮ができた当初、多くは受け入れを行わず、男子生徒のみを受け入れていた。平地域も 3~5 名の男子生徒のみもしくは女子生徒のみに限定できないか。

県教委 県としては、とても性別を分けて募集はできない。

委員 C 人を雇うと考えると本当に大変。弁当も考えてもいいのではないか。

委員 B 衛生面の問題から、生徒は寮の厨房に入れていない。  
また、県外生徒が週末に寮に残るとなると、県内生徒やその保護者からも週末滞在の希望者が出る可能性があるため、完全に分けたほうが良い。

委員 F 県外からくる生徒に関しては、民宿や下宿などお世話をしてくれるところを探したほうが良い。高岡の高校や砺波の高校に進学した生徒は下宿していたので、下宿で問題ないのではないか。

事務局 切り離した方が簡単ではあるが、県外の保護者がどう思うかは別の問題になる。

委員 B 地域の方に、実際に受け入れを行っていただけるように機運を高めていただきたい。そのため、県外生徒の受け入れについては、平日については通常通り、休日については地域で受け入れる体制を作っていただければ。

会長 緊急時等の対応については、コーディネーターや地域おこし協力隊、市役所や地域で対応すると説明されている。しかし、週末の県外生徒の受け入れを地域としてどれだけ人を出せるのか（寄宿舍に）よりも、下宿やホストファミリーのほうがハードルは低いのではないかと意見があったが、いつまでに結論を出す必要があるか。

事務局 12月末まで。平地域・上平地域で受け入れに協力いただける家庭を探す。

委員 D 令和7年に入学する生徒を全国から募集するのは決定なのか。

会長 決定ではない。この会議において受け入れ体制が決まらなければ、進まない。

#### （４）今後の予定

委員 B 本当に令和7年から生徒が来てもらえるように、お金をかけて地域の魅力をかけて、PR商材を用意する必要がある。夏前には用意しなければならない。広報物の作成は誰が行うのか。学校側の負担の見通しが見えるようにしてほしい。

会長 地域・魅力化プラットフォームが、統一的に情報提供を行えるシステムを持っているため、その点は心配いらぬのではないかと。

委員 B 他校では、実際に高校の教員が合同説明会に参加している。場合によっては生徒もつれて。学校がどこまでやればいいのか、またやれるのか。PRを行うにしても、学校の魅力を伝えるものがなければならないと思っている。

事務局 PRが一番大切だと思っている。写真や動画撮影などで学校側に負担をかけることはあるかもしれないが、市が主体となりながら、プラットフォームの支援を受けて実施していきたいと考えている。また、コーディネーターは県外から来ており、あまり地域に詳しくはないため、2年目以降そういった活動に取り組んでいただくことを検討している。

委員 B 炊事員に関しては、今年度 1 人退職し、その代替職員を探すのでさえ、大変だった。しかし現在の炊事員に休寮日の勤務を依頼するのは難しい。

委員 F この準備会は、次回開催はいつになるのか。

事務局 12 月中に、再度開催したいと考えている。

会長 学校の負担がこれ以上大きくならないように、地域でしっかりと全国から生徒を受け入れる体制が大切になる。準備会は、地域でどこまでできるかを話し合う会。寮か下宿か方法は分からないが受け入れ体制が整わなければ、全国から生徒が募集できないことになり、平高校は現状のままになる。そうすると、2027 年から高校の再編の波を受けることになるため、その点も考慮して協議を進めていきたい。